



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 父兄会秋季部会が開催されました

歯学部長 榎 宏太郎



令和元年度の父兄会秋季部会が10月19日に開催されました。小雨が心配される天候ではありましたが、歯学部では、総出席者数222名と多くのご父兄の皆様への参加を賜りました。

13時から、4号館6階で開かれました歯学部の全体会では、私からの学部の教育に関するアンケート結果と今後の学部教育基本方針の紹介に続き、高見研究科長による大学院研究課程の案内と飯島教育委員長から教育スケジュールの説明がなされ、上條学生部長からは、学生生活を支援する本学の体制の詳細が伝えられました。

総会後は、各教室や会議室に分かれて、指導担任とご父兄との個別面談が行われました。およそ1時間半以上に渡り、かなり活発な面談となった模様です。

その後、15時半からは、上條記念館地下1階の富士桜の間に場所を移し、懇親会が開かれました。懇親会には、殆どのご父兄が参加されました。各自記念館の見学の後には、父兄会長のご挨拶に続き、小口理事長からは、国家資格を獲得する上で日頃の学習がいかに大切であるかが説明されました。乾杯の後、全学部の参加者と教員が親睦を深めました。

今回の懇親会における質疑応答や個別面談を通して、ご父兄の皆様が修学環境やご子息の学習到達度に大きな関心を持たれており、目標に向かって、より一層大学との連携を深めたいと希望されておられることが分かりました。

今後さらに教職員と父兄が一体となり、より緊密な連携をとって、学生諸氏の勉学を支援したいと思います。皆様の一層のご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 歯学部入試説明会が開催されました

入試常任委員 高見 正道

令和元年9月14日(土)の午後1時より、歯学部入試説明会が旗の台キャンパスにて行われました。今年度の説明会には、77名の受験希望者が参加し、そのうち33名は7月または8月に開催された歯学部オープンキャンパスにも参加された人でした。

説明会では、最初に私が歯学部の入試区分とその詳細について解説するとともに、面接や小論文試験の対策について一般的なアドバイスをしました。その後、参加者のほとんどが駿台予備校の講師による歯学部の過去の入試問題解説を受講しました。また、個別面談では受験生やその保護者からの質問に対して常任委員が丁寧に対応しました。

アンケート(下記)では、今回の説明会の成果が「期待以上だった(42%)」または「十分あった(42%)」とする回答が大半を占め、参加者の満足度が高いことが伺えました。今年度も優秀な受験生が1人でも多く本学の入試に挑戦してくれることを期待しています。



入試説明会参加者アンケート結果

本学に感じる魅力	1) 医系総合大学(82%) 2) カリキュラム(29%) 3) 学費(16%)
予定受験校	1) 選抜試験(84%) 2) 推薦(42%) 3) センター(34%)
検討中の他大学	1) 日本歯科大学(37%) 2) 東京歯科大学(29%) 3) 日大歯学部(24%)
志望校選定条件	1) カリキュラム(71%) 2) 施設・設備(40%) 3) 学費(34%)

## 第113回歯科医師国家試験の日程が決まりました

D6チューター会議委員長 船津 敬弘

厚生労働省より第113回歯科医師国家試験の実施日程に関する公示があり、試験日は令和2年2月1日(土)、2日(日)と決定いたしました。6年生には既に10月3日に第1回受験手続の説明会が行われており、11月中に出願、来年1月22日に受験票交付という流れになります。

6年生は現在卒業試験Ⅰが終了し、12月初めに行われる卒業試験Ⅱに向けて、日々の講義終了後も教室や図書館に残り勉強している学生が多数見られます。日に日に秋が深まって、気温も徐々に下がりますが、体調に留意して残りの期間を悔いなく過ごし、来春には歯科医師として新たなスタートを切ってくれることを期待しております。

## 第82回私立大学歯学部学生生活協議会が開催されました

学生部長 上條 竜太郎

令和元年9月12日、13日の両日、第82回私立大学歯学部学生生活協議会が、



上條記念館地下1階富士楼で開催されました。

本会は、全国の私立大学歯学部で学生の生活指導を担当する教育職員と事務職員が一堂に会し、各大学が各々直面する学生に関する諸問題を持ち寄り、それらに対する対策を話し合うものです。昨年の本会は、北海道医療大学で開催予定でしたが、北海道胆振東部地震の影響で中止となりましたので、2年ぶりの協議会となりました。また本学での開催は平成14年以来、17年ぶりでした。

当日は、計48名の代表者が参加し、まず私が開会の辞を述べた後、当番校挨拶として久光学長、榎歯学部長が挨拶を行い、次に私立大学学生生活協議会長である東京歯科大学学生部長の佐藤先生、また日本私立大学協会副会長の大友先生が挨拶をされ、開式致しました。終始和やかな雰囲気のもと活発な質疑応答や意見交換がなされ、初日の協議会終了後に開催された懇親会では、積極的な情報交換を行うなど参加者間で交流を行い、相互の親睦を図る良い機会となりました。

次回の第83回私立大学歯学部学生協議会は、松本歯科大学で開催されます。

## 昭和大学解剖慰霊祭が挙行されました

口腔解剖学講座 中村 雅典



令和元年度昭和大学解剖慰霊祭が、10月15日(火)午後2時より本年竣工された上條記念館で行われました。学長、学部長をはじめ教職員、医学部・歯学部・薬学部・看護専門学校の学生および多数の御遺族が参列しました。本年度の慰霊祭は平成30年9月から令和元年8月までの間に御逝去され、正常解剖のために献体された方および病理解剖に供された物故者を慰霊するために、御遺族をお招きしてしめやかに挙行されました。歯学部の2年生で行われる解剖学実習のために献体され、今年度慰霊される物故者は17柱でした。歯学部の解剖学実習は5月から7月にかけて連日行われました。学生は人体解剖学の知識の習得と献体に対する感謝の気持ちを込めて、静粛な心で式に参列しました。

開会の辞に引き続いて、物故者の御冥福をお祈りし



して黙祷が捧げられ、昭和大学代表として医学部法医学講座の松山高明教授が祭文を述べられました。続いて学生代表として歯学部からは2年生の飯田萌さんが弔辞を述べました。久光正学長より参列者に対して御挨拶があり、最後に参加者全員が献花を祭壇に捧げて故人の冥福を祈り、午後4時に解剖慰霊祭は終了しました。

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

11月15日(金): 創立記念日

11月17日(日): 推薦・編入入試

11月30日(土): 春季大学院入学試験

## 第61回歯科基礎医学会でライオン 学術賞を受賞しました

口腔病理学部門 美島 健二

この度、第61回  
歯科基礎医学会で  
ライオン学術賞を受  
賞しました。応募研  
究主題は「唾液分泌  
障害の新規治療法  
の開発」です。

これまで私は、唾  
液分泌障害をテー  
マに継続的な研究  
を行って参りました。  
すなわち、シェーグ



レン症候群や頭頸部癌の放射線照射などによる唾液  
分泌障害の発症メカニズムの解析に従事するととも  
に、新規治療法として細胞治療の応用を進めてまい  
りました。具体的には、マウスの唾液腺組織に存在  
する血管内皮様細胞を用いた細胞治療が、放射線照  
射による唾液分泌障害に奏功することを報告し、当  
該腺組織の障害に細胞治療が有効であることを報告  
してきました。加えて、そのメカニズムについても解析  
を進め、これらの細胞から分泌される抗酸化蛋白で  
あるクラスチンなどの液性因子が細胞の保護に働  
いている事を明らかにし、腺組織障害における間質  
細胞の重要性を強調しました。一方、腺組織障害の  
著しい重症例に対しては、失われた腺組織を生体外  
から移入する細胞治療の必要性を考え、移入ソース  
として唾液腺幹細胞の単離・増幅に関する研究も進  
めてきました。また、最近の成果としては、マウス ES  
細胞から唾液腺オルガノイドを作出することに成功し  
たことが挙げられます。本唾液腺オルガノイドは生体  
内の唾液腺の動態をよく反映したものであることがわ  
かりました。今後、本研究で得られた技術をヒト iPS  
細胞に応用することにより、ヒトの唾液腺オルガノイド  
を作出し小唾液腺として口腔粘膜下に移入する新た  
な治療法として発展させたいと考えています。

最後になりましたが、これまで継続的に研究を行う  
ことができましたのは、当部門のスタッフや大学院生、  
歯学部先生方ならびに学外の共同研究者の皆様  
のお力添えによるものです。この場をお借りして心よ  
り御礼申し上げます。これからも唾液腺研究に邁進  
致しますので引き続きご指導のほど宜しくお願い申し  
上げます。

### 昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

畔津 佑季 助教 (歯科薬理学)

## 先端歯学スクール2019で最優秀 賞を受賞しました

大学院4年(口腔生化学講座) 笹間 雄志

8月27日、28日  
に大阪大学吹田キャン  
パスで開催された  
先端歯学スクール2  
019で最優秀賞に選  
出されました。発表  
演題は「イオウ呼吸  
は成長板軟骨細胞



の増殖を制御する新たな呼吸システムである」です。  
先端歯学スクールは、「先端歯学国際教育研究ネット  
ワーク」が毎年開催し、各歯科系大学から各校1名ず  
つ選抜された大学院生の中から、歯学分野の未来を  
担う若手研究者を育成することを目的としています。  
私の研究は、軟骨細胞の増殖制御にミトコンドリアに  
おけるイオウ(硫黄)原子を介したエネルギー代謝(呼  
吸)システムが関与していることを発見したもので、生  
体のエネルギー産生機序に新しい概念を提示するも  
のです。先端歯学スクールでは、他大学の大学院生と  
研究について議論し、ご高名な先生方からアドバイ  
スを頂く機会を得られ、大変有意義な時間を過ごすこ  
うことができました。今回の経験を糧として、より一層研究・  
勉学に励んでいきたいと考えております。本発表にあ  
たりご指導頂きました口腔生化学講座の上條竜太郎  
教授、宮本洋一准教授、吉村健太郎講師、顎顔面口  
腔外科学講座の代田達夫教授をはじめ、諸先生方に  
この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 受賞

広報委員長 中村 雅典

第61回歯科基礎医学会 ライオン学術賞  
口腔病理学部門 美島健二

第10回日本デジタル歯科学会学術大会  
・口腔内スキャナーコンペティション トリオス部門 優勝  
歯科補綴学講座 三好啓太  
・口腔内スキャナーコンペティション TD 部門 優勝  
大学院4年(歯科補綴学講座) 岩内洋太郎

日本宇宙生物科学会第33回大会

・奨励賞  
薬理科学研究センター・歯科薬理学講座 茶谷昌宏  
・優秀発表賞  
薬理科学研究センター 百々悠介

文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究  
「宇宙に生きる」2019年度第1回全体会議  
ポスターセッション優秀賞

大学院4年(薬理科学研究センター・歯科薬理学  
講座) 畔津佑季

## 第10回日本デジタル歯科学会で受賞しました 歯科補綴学講座 三好 啓太

第10回日本デジタル歯科学会にて開催された第1回オーラルスキャナーコンペティション(3Shape TRIOS 部門)において最優秀賞を受賞致しました。



オーラルスキャナーコンペティションは、口腔内スキャナーの熟練者がその手技をコンペ形式で競いながら実演することで、口腔内スキャナーの普及に貢献するという目的で、今年初めて開催されました。

私の所属する歯科補綴学講座は、私が学生の頃から歯科治療のデジタル化に力を注いでおり、口腔内スキャナーを用いた研究や臨床をおこなっていました。私は、歯科治療のデジタル化への興味から補綴科の大学院へと進学し、大学院時代から職員となった現在も、口腔内スキャナーを用いた臨床研究を行いながら日々の臨床にも活用しています。そういった環境で毎日口腔内スキャナーに触れているため、当講座のデジタルチームは誰が出演しても同様に受賞することが出来たと思います。その中でも、第1回という記念すべき大会に出場の機会を与えていただいた馬場一美教授、日ごろからご指導いただいている田中晋平先生をはじめとしたデジタルチームの先生方に厚く御礼を申し上げます。

今後も、デジタル歯科と口腔内スキャナーの普及のために少しでも貢献出来るよう励んで参りたいと思います。

## 第10回日本デジタル歯科学会で受賞しました

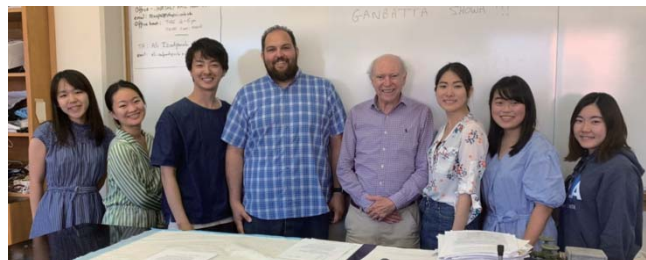
大学院4年(歯科補綴学講座) 岩内 洋太郎

10月4～6日に奈良春日野国際フォーラムにて開催されました、日本デジタル歯科学会第10回学術大会のオーラルスキャナーコンペティション 3M True Definition 部門におきまして光栄な事に最優秀賞を受賞致しました。TRIOS 部門では野球部の先輩でもある三好先生が受賞し、とても良い思い出になりました。一見競い合う事が目的のように見えますが、現在我が日本における歯科医療でもそうですが、世界的にも光学印象を用いた臨床が普及しつつあり、その中で日本デジタル歯科学会が専門医制度を設置するに当たって、実技試験のテストランとしての意味合いもありました。自分自身、卒後のキャリアにおいて当講座大学院で研鑽を積みたいと考えた理由として、昭和大学は宮崎先生、馬場先生が国内でも先陣を切ってデジタルデンティストリーに非常に力を注がれてお

り、素晴らしい設備が整っているこの環境に魅力を感じたからです。また、今回のコンペティションの運営には当講座田中先生を中心にデジタルチームの先生方がスタッフとして協力してくださりました。今回の受賞は日々の研究は勿論の事、毎日この恵まれた環境の中で臨床が出来ている賜物であると感じております。この場をお借りして御礼を申し上げます。

## UCLA 学生海外研修に参加しました

歯学部3年 松岡 かれん



この夏、有難いことに UCLA に短期留学する機会を与えられました。歯学部からは一人だけの参加で、期待に胸を膨らませながらアメリカへと旅立ちました。授業は Public speaking と生理学を受講し、休日には昭和大学出身の先生方にお目にかかり多くの刺激を受けました。Public speaking には世界中の UCLA で学びたい学生達が集まっており、意識の高い学生ばかりでした。英語が第一言語でない人たち同士なので、時にはお互い助け合い人と人のつながりを感じることができました。生理学は、昭和大学が毎回お世話になっているクーパー先生のご親切なフォローによりなんとか乗り切ることができました。クーパー先生には心から感謝しております。2つの授業に共通していたのは、ディスカッションが多いということです。ディスカッション形態は、日本の学生にとっては不慣れで初めは発言に戸惑うこともありましたが、周りの主体的な学生に引っ張られて徐々に慣れていくと、内容への興味が掻き立てられ、楽しく授業を受けている自分がありました。また、理解し考えて発言するせいか、授業の内容がいつもより良く定着している気がしました。休日は昭和大学出身のアメリカで活躍されている先生方のお話を聞く機会がありました。今まで私の知らなかった世界の話を聞くことができましたが、例え同じ話を日本で聞いたとしても理解の仕方が違ったかもしれないと思いました。学びは環境の場で変化するのだと実感しました。今回の UCLA 学生海外研修は私の人生において大きな転機となったことに間違いありません。この経験を活かせるよう、日々精進していきたいと思ひます。

## 編集後記 口腔生理学講座 中山 希世美

今年は台風による災害が続きました。被害にあわれた方に心よりお見舞い申し上げます。末筆ながら、ご多忙の折ご寄稿くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。